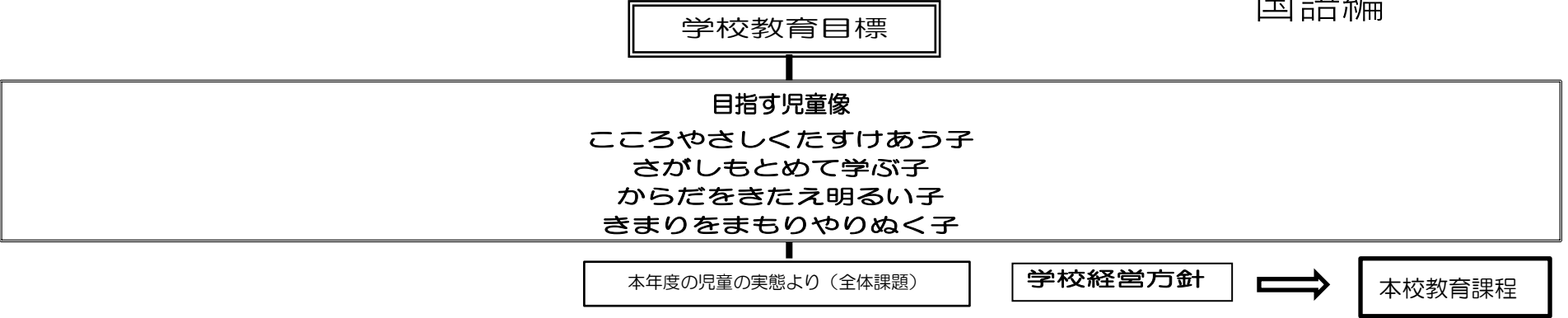




※学力調査の結果から、本校児童には次のような課題が見えてくる。

- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができない（知識・技能）
- ・文の中における主語と述語との関係を捉えることができない（知識・技能）
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができない（思考・判断・表現、書くこと）
- ・目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができない（思考・判断・表現、書くこと）

- 1年生…拗音・促音・長音・助詞が定着していない。なめらかな音読ができないため、意味を捉え間違ってしまうことが多い。文章の中から問題にあった答えを書きぬくことに課題がある。聞く力も十分でない。
- 2年生…仮名遣い、助詞、句読点などの基本的な表記が正しくなされていないケースが多数みられる。また、発音と表記が一致しないことから、文字と音の関係性を十分に理解できていない児童もいる。これは、児童の読解力低下の要因の一つと考えられる。
- 3年生…漢字を読んだり書いたりすることや、言葉の使い方等については概ね身に付いているが、物語を読み取ることや、語と語・文と文の続き方に気を付けて書いたり、条件に沿って文章を書いたりすることについて課題がある。
- 4年生…長文読解の経験が少ない。漢字の基礎的な知識が身についておらず、学習した漢字を文章中で正しく使えない児童が多い。学力調査の結果では、当該学年までの思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度はあまり高くない。
- 5年生…書くことへの苦手意識から、記述問題の無回答率が高く、県平均からも大きく下回っている。漢字の基礎的な知識が身に付いておらず 学習した漢字を文章中で正しく使うことに課題がある。
- 6年生…全国平均をやや下回っている。まず、無答率が高いこと。次に、知識及び技能の言葉の特徴や使い方（漢字）に関する事項、思考・判断・表現の「書くこと（事実と感想、意見の書き分け）」に課題がある。一方で、知識及び技能の情報の扱い方に関する事項、思考・判断・表現の「読むこと（物語）」に関しては、全国平均を大きく上回っている。

方策

*9月からの取組		成果の検証
○効果的な「漢字テスト」をする（「覚えさせる」工夫よりも「覚えたくなる」工夫を） ○教科書「たいせつ」や「言葉の宝箱」を活用する ○キュピナを活用し、基礎的な言語力の問題に取り組む（漢字練習をキュピナ任せにはしない） ○漢字や音読は、身体を使って練習を繰り返す ○複数の資料や友達の意見を結び付けて、自分の考えを形成する経験ができる授業づくりをする ○読解力を高めるために、身体性を伴う読みをする（声に出す、色をつける、番号、指でなぞる、囲む、結ぶ等）		
1年	・拗音等を含めた単語力の強化（宿題、隙間時間）を図る。 ・音読練習（教科書の話・教科書外の詩の音読）を充実させる。 ・「キュピナ」「アシストシート」を使った活用力の向上を図る。 ・スピーチタイム（朝の会、帰りの会）や日記指導による表現力の向上を図る。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
2年	・家庭学習と連携し、漢字学習の効率化を図る。児童の学習進度に合わせて漢字練習の機会を設け（自由進度学習）、計画的な漢字テストを実施することで、学習意欲の向上と定着を目指す。キュピナを用い、個に応じた課題に取り組ませる。 ・書く活動では視点を明確にして指導し、デジタルノートを活用し互いに作品を読み合い学び合いの場を設ける。 ・既習の漢字を正しく用いさせ、会話文を使った日記を書けるようにする。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
3年	・物語の読み取りの学習では、叙述を元に（根拠を挙げて）考え、自分の考えを書くことを授業で意図的に仕組む。 ・学習の中で、自分の考えや条件に合わせた書く活動を取り入れる。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
4年	・理科や社会の教科書の重要語句を使った作文を行い、1分間に40文字を目標にして、書く力を高める時間を確保する。週末には、条件作文の課題を出したり、感想や振り返り、日記などの文章の中で漢字を正しく使うことを意識させたりする。 ・文章や資料から情報を読み取る問題や、記述で答える問題に取り組ませる。その際、答えの根拠となる語句や文に、ラインを引かせたり、資料を読み取る際に題名を意識して書かせたりする。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
5年	・条件作文など書く活動に取り組む。その際に、文章を書くときの約束を示す。 ・感想や振り返りなど、文章の中で漢字を正しく使うようにさせる。 ・「キュピナ」を活用させ、漢字の読み書きや、言葉の問題に取り組ませ、語彙力を高める。	・課題プリントや単元末テストでの検証を行う。
6年	・言葉の特徴や使い方（漢字）に関する事項を高めるために、小学生漢字卒業試験を実施する。 ・書くこと（事実と感想、意見の書き分け）に関する事項を高めるために、次の三つに取り組む。一つ目は、話すこと・聞くことにおいて、事実と考えを分けて話すよう促す。二つ目は、読むこと（説明的な文章）において、筆者の事例と意見を分けて読み取るよう促す。三つめは、書くことにおいて、文末表現に気を付けながら、自分の考えと、事実を分けて書くように促す。	・合格した人数で検証 ・「書くこと（事実と感想、意見の書き分け）」評価テストの実施し、達成度で検証